

タニシとスクミリンゴガイの見分け方

タニシの仲間よりも、各螺塔は膨らみます。



オオタニシ

殻高60mm前後。主にため池等の水量の安定した場所に生息している大型のタニシ。雌雄異体で卵胎生です。



マルタニシ

殻高40mm前後。主に水田内部に生息しているタニシ。年間を通じて極度に乾燥しない水田が必要です。雌雄異体で卵胎生です。



ヒメタニシ

殻高20-30mm前後。主に用水路に生息しているタニシ。コンクリート面等の垂直部分にも群生することがありますが、水田内部では見つかりません。雌雄異体で卵胎生です。



スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

1986年7月に、松山市、宇和島市の一部で野生化した本種が確認されたのが愛媛県初記録です。外観がタニシと似ていることから通称「ジャンボタニシ」と呼ばれていますが、リンゴガイ科の貝なのでタニシの仲間ではありません。水稻の苗を食害し、繁殖力も強いことから各地で問題になっています。

卵胎生で、卵を産みません。

※冬眠中のメスの体内で卵を保育し、翌年に稚貝を産み出します。

ピンク色の卵を産みます

愛媛県立衛生環境研究所
生物多様性センター